

## 豊かな心は大人の「語り」から

校長 上橋 秀司

先月26日に、気象庁から「近畿地方が梅雨入りしたとみられる。」と発表がありました。これは、平年より12日早い梅雨入りだそうです。さわやかな新緑の季節を満喫する間もなく、夏の訪れとなりました。夏と冬が長く、そして、過ごしやすい春と秋が短くなり、日本の四季も二極化してきたようで、少し寂しい思いがしています。

集団生活を送る学校では、みんなで気持ちよく過ごすためにどんな心構えでどう行動するかということをおぼせていくことは、大きな教育課題の1つです。先日の自然学校でも、宿舎の中、食事、入浴、就寝や起床の時にどう行動すればよいか、丁寧に指導がなされました。その様子を見ていて、次のような話をよく子どもたちにしていたことを思い出しました。

天国と地獄での食事風景です。大きな円卓には、今までに見たことがないような豪華な料理が山のように用意されているのです。そこには、1メートル近くもある長いお箸（スプーン）が用意してあります。いよいよ食事が始まりました。しばらくすると、天国と地獄の食事風景は、全く異なるものになっていくのです。地獄では、文句を言い合い、けんかが始まっています。反対に天国では、みんな笑顔で楽しそうに談笑する声が聞こえてきます。さて、どうしてこのようになったのでしょうか。

こんなふうに関わり合いながら話をすると、子どもたちは、興味深く聞いてくれます。そして、続けて話します。地獄では、自分が一番先においしい料理を食べたいが為、お箸を取り合い、無理をして食べようとしたんだよ。だから、ごちそうはこぼれ、上手く口に入らず、いらいらしてけんかになっていたんだよ。天国では、お先のどうぞと目の前の人に食べさせていたんだよ。だから、あちらこちらから「ありがとう。次は、あなたの番ですよ。」という声が聞こえてきます。見ていて心が温かくなったよ……。この話は、京セラの設立者である稲盛和夫氏の著書「生き方」という本の中に掲載されていたものを、小学生向けに少しアレンジしたものです。

日頃の生活の中では、<ああしなさい。こうしなさい。そんなことではダメでしょ。>と、ついついストレートな言葉が多くなりがちです。だからこそ、ゆっくりと時間をかけて、子どもたちの心に残る話や体験談などを語ることがとても大切だと思います。

豊かな心は、このような大人の「語り」の中で育まれていきます。いよいよ梅雨入り。心に響く「語り」を子どもたちに与えるよい機会の訪れです。